



季刊 VOL. 79
 発行日 令和8年2月10日
 発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
 問い合わせ 044-588-4030
 飼育展示数 哺乳類:20種121点
 鳥類:22種65点
 爬虫類:9種94点
 (令和8年1月末日現在)

最近の動物公園

本格的な寒さの中、少し日差しがあるとこれを逃すともったいないと言わんばかりに日向ぼっこをする動物の姿がよく見られます。自分で暖かい場所を探すもの、このくらいの寒さがちょうど良く気持ちよさそうなもの、寒さに耐えられそうになくバックヤード等へ移動するもの、動物種や個体によってさまざまな冬を過ごしています。



レッサーパンダ・ケイコ



ヤギ(左から)セサミ、セイロ、セブン、タンゴ



テンジクネズミ・こつぶ



ワタボウシパンシエ・まつ



ロバ・バロン

飼育の日イベントのお知らせ

飼育の日イベント開催についてお知らせです。

★日時 令和8年4月19日(日曜日) 10:00~15:00

★内容

- ・イベント「動物のからだのちがいを知ろう！」(当日抽選制・要整理券)
- ・生物多様性セミナー ワークショップ(定員なし)/トークイベント(事前申し込み先着順・ホームページで案内)
- ・キーパーズトーク

※荒天中止

※天候・動物の体調によってイベント内容は変更になる可能性があります。

※4月19日は語呂合わせで飼育(しいく)の日です。

※春の動物園まつりは中止となります。



ホンダタヌキ・げんまい

*公式 Twitter(X)はこちらから→



*公式 Facebookはこちらから→



★ピックアップ動物★

ボリビアリスザル

哺乳綱 サル目 オマキザル科



ボリビアなど南米アマゾン川流域の森林に数十頭以上の群れで生息します。雑食で木の実や虫、小動物などを食べます。野生ではほぼ樹上性（木から降りずに暮らすこと）で、長い尾は枝の上でバランスを取るのに役立っています。子育ては母親以外の♀が協力することもあり、以前ポルトが出産した際には、同じく♀のいろはが子どもに興味津々で、しばしば寄り添う姿も見られました。

当園の個体は全部で7頭、今年23歳になる♂のはかたは高齢のため群れでの飼育が難しくなり、病院で余生を過ごしていますが、餌ももりもり食べ、元気にしています。展示の6頭は顔の造りや体格が各々特徴的なのですが、性格もそれぞれ違います。よく飼育担当の肩に乗っているのは最年少の♀しるこ。若い♂サンダーは恐れを知らない子ども時代にスズメバチを捕まえようとしたり、ムカデにちょっかいをかけて噛まれたりしたことも。時々歯の治療をしている高齢♂のルーサーはちょっと涙目なことも。立派なもみあげ模様のわかたは♀です。

しばらく観察しているとサル同士の関係性や色々な仕草が見られて面白いです。たまにサルが格子の隙間から手を出してくることがありますが、人間の皆さんは真似してサルに向かって手を出さないように。

獣医の日記

ピックアップ動物コーナーで少し触れましたが、ボリビアリスザルのはかたは高齢のためバックヤードで飼育をしています。最初のきっかけは体調を崩したことでしたが、回復した後に退院させると高齢ゆえ環境があわなくなってきたのか、あるいはしばらく群れと離れていたため折り合いが悪くなったのか、また不調になる…ということを繰り返したためです。飼育下での寿命は20歳程度とも言われており、23歳はだいぶ高齢ということもあって体調に波があり、ちょっとしたトラブルは時々起こるものの、飼育担当たちの細やかな気配りにより、概ね安定した日々を過ごしています。

動物を展示して生態を知ってもらうのは動物園の大きな役割のひとつですが、展示動物だけでなく、様々な理由で展示できない動物のケアも、このような役割を動物に担ってもらっている我々の義務だと考えています。飼育管理作業や診療等、その行為自体や結果はともかく、それらにかかる配慮や思惑そのものは見えるはずがないものなので、いわゆる「動物園が社会に求められる役割」との関連はあまり無いように思われ、実際、直接結びついているわけではありません。それでも、動物園が人間社会において果たす役割、すなわち動物が動物園を通じて人間に提供してくれる知識や体験は、動物の自然で自由な一生と引き換えであることを、それに対して我々がまず最優先するべきは動物のケアであることを常に念頭に置くことだけは忘れてはいけないと、折に触れて気を引き締めています。

★動物たちの主な移動(令和7年11月1日～令和8年1月31日)★

テンジクネズミ(♂2死亡、♀2死亡、性別不明9繁殖)、マーコール(♂1死亡)、アカアシガメ(♀1死亡)